

千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第16週(4/13-4/19)の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	16週	15週	14週	13週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県 4/6-4/12 15週
		注意報	4/13-4/19	4/6-4/12	3/30-4/5	3/23-3/29	
			16週	15週	14週	13週	
小児科	RSウイルス感染症		0	0	1	2	7
	咽頭結膜熱		0	0	0	2	12
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		11	23	36	31	205
	感染性胃腸炎		13	19	25	35	138
	水痘		0	0	2	3	21
	手足口病		0	0	1	0	3
	伝染性紅斑		1	2	1	2	13
	突発性発しん		10	9	12	12	38
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	5
	流行性耳下腺炎		4	0	1	0	7
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1	2	6	2	7
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	2	1	2	11
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(25件)

※新型コロナウイルス感染症19件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	IGRA検査	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	男性	70歳代	病原体の分離・同定
結核	男性	60歳代	病原体等の検出	梅毒	女性	30歳代	血清抗体の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出	新型コロナウイルス感染症	10歳代-70歳代		病原体遺伝子の検出
クロイツフェルト・ヤコブ病	女性	80歳代	臨床症状及び脳MRI検査				

・第16週は、結核3件(54)、クロイツフェルト・ヤコブ病1件(1)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(4)、梅毒1件(7)、新型コロナウイルス感染症19件(57)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第16週のコメント

過去10年の同時期と比べて全て平均以下となっている。

<トピック>

<新型コロナウイルス感染症>

・発生届

第16週は10歳代から70歳代までの19件の届け出があり、合計は57件となりました(図1-1)。

性別では男性が38名(66.7%)、女性が19名(33.3%)で、年齢層は10歳代から70歳代まで、年齢中央値は全体で51.0歳で、男性は52.9歳、女性は48.0歳となっています。年齢階級別では50歳代(18名:31.6%)、40歳代(14名:24.6%)、20歳代(8名:14.0%)の順に多くなっています。男性では50歳代を中心として比較的高い年齢層に多く、女性では20歳代~40歳代を中心として比較的若い年齢層に多く発生している傾向となっています(図1-2及び表1)。

症状は、発熱(48名:84.2%)、咳(25名:43.9%)、味覚障害(14名:24.6%)の順で多く、以下倦怠感(9名:15.8%)、嗅覚障害(8名:14.0%)と続いています(図1-3)。現時点での主な症状を年齢階級別で見ると、40歳代以上では殆どの方が発熱していますが、年齢が下がると共に減少傾向にあり、咳の症状があった人の割合は年齢階級による差は余り見られず、味覚障害は14名中9名が30歳代以下で比較的若い年齢階級で多くなっています(図1-4-1~5及び表2)。

図1-1 発生届状況
(受理日別 千葉市 n=57)

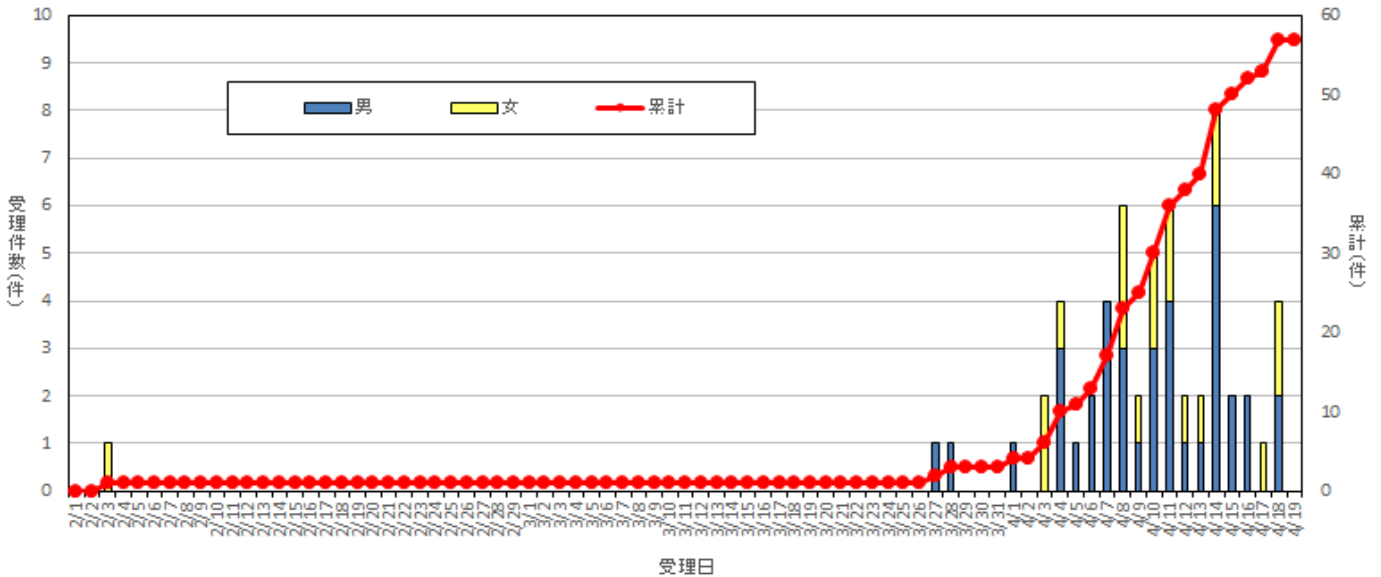
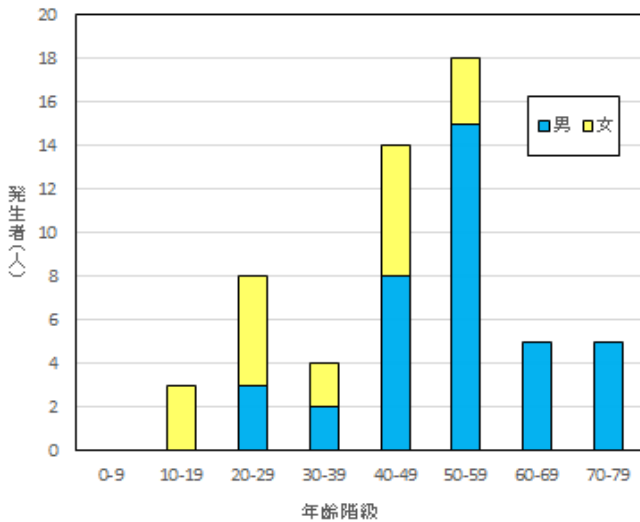


図1-2 発生届状況
(性別及び年齢階級別 千葉市 n=57)



中央値	52.9	48.0	51.0	
年齢層	男	女	計	
0-9	0	0	0	0.0%
10-19	0	3	3	5.3%
20-29	3	5	8	14.0%
30-39	2	2	4	7.0%
40-49	8	6	14	24.6%
50-59	15	3	18	31.6%
60-69	5	0	5	8.8%
70-79	5	0	5	8.8%
80-89	0	0	0	0.0%
90-99	0	0	0	0.0%
100-	0	0	0	0.0%
計	38	19	57	100.0%
	66.7%	33.3%	100.0%	

表1 性別及び年齢階級別

図1-3 症状別(重複あり)

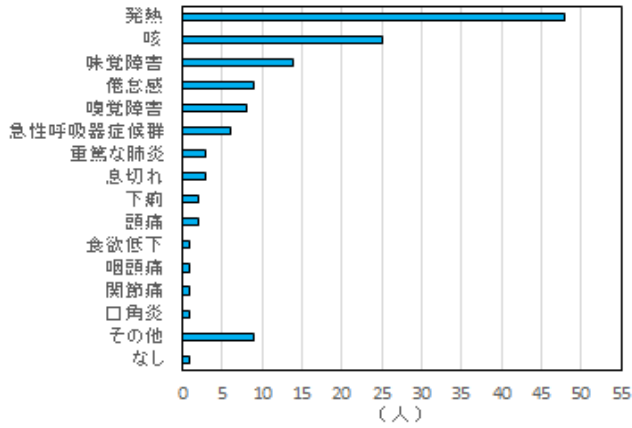


図1-4-1 年齢階級別の症状:発熱

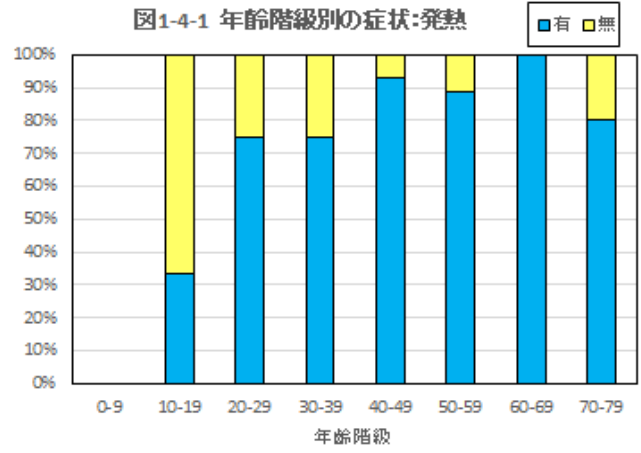


図1-4-2 年齢階級別の症状:咳

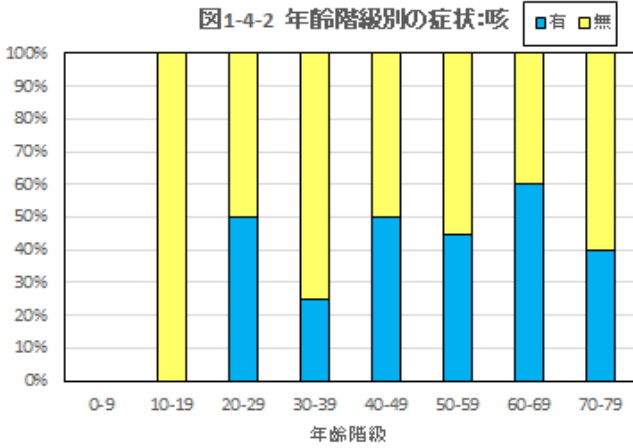


図1-4-3 年齢階級別の症状:味覚障害

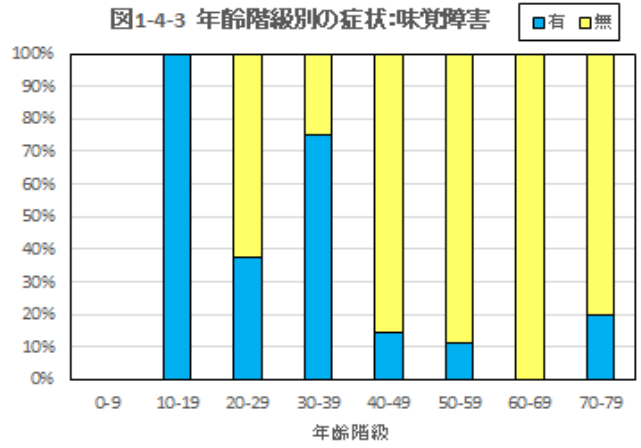


図1-4-4 年齢階級別の症状:倦怠感

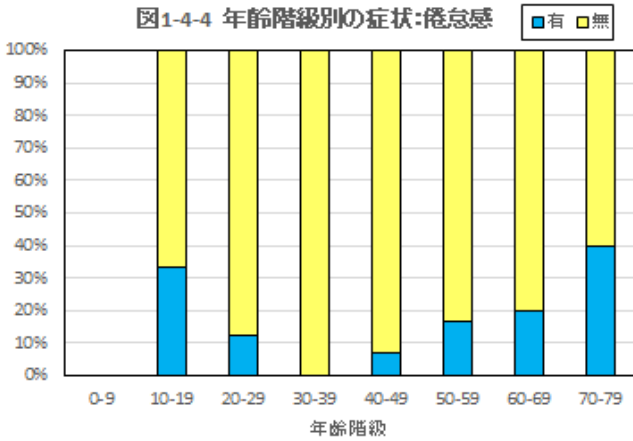
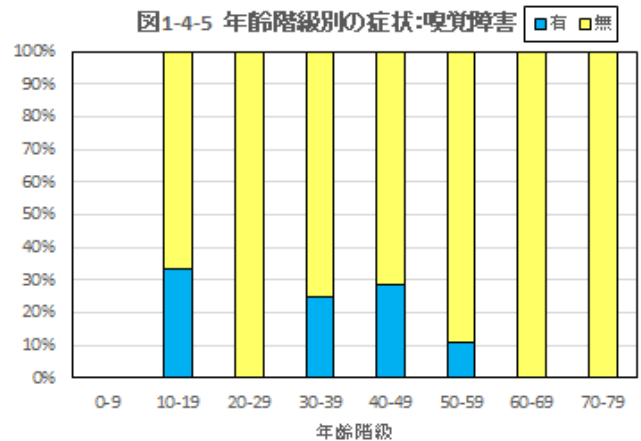


図1-4-5 年齢階級別の症状:嗅覚障害



年齢層	発熱	咳	味覚障害	倦怠感	嗅覚障害	急性呼吸器症候群	重篤な肺炎	息切れ	下痢	頭痛	食欲低下	咽頭痛	関節痛	口角炎	その他	なし
0-9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10-19	1	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
20-29	6	4	3	1	0	0	0	0	2	1	0	1	1	1	1	0
30-39	3	1	3	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
40-49	13	7	2	1	4	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1
50-59	16	8	2	3	2	3	1	1	0	1	0	0	0	0	5	0
60-69	5	3	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
70-79	4	2	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80-89	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
90-99	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
有	48	25	14	9	8	6	3	3	2	2	1	1	1	1	9	1
無	9	32	43	48	49	51	54	54	55	55	56	56	56	56	48	56
発生率	84.2%	43.9%	24.6%	15.8%	14.0%	10.5%	5.3%	5.3%	3.5%	3.5%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	15.8%	1.8%

表2 症状別(重複あり)

・ウイルス検査

千葉市環境保健研究所では、2020年第16週(2020年4月19日時点)までに1529例(検体数1706)について新型コロナウイルス感染症の検査を実施しました。搬入された市中感染・輸入例疑い事例は1297例(うち陰性化確認等63例)となっており、この他クルーズ船関連事例191例(うち陰性化確認126例)、その他陰性化確認等41例の検査を実施しました。

そのうち、陰性化確認等63例を除いた市中感染・輸入例疑い事例1234例(検体数1360)について(図2-1)は、陽性は62例(陽性割合:5.02%(62/1234))でした(図2-2)。陽性62例のうち、男性は41名(66.1%)、女性は21名(33.9%)で、年齢階級別では、50歳代(18名:29.0%)、40歳代(14名:22.6%)、20歳代(9名:14.5%)の順で多くなっています(図2-3)。

図2-1 新型コロナウイルス感染症市中疑い事例PCR検査数

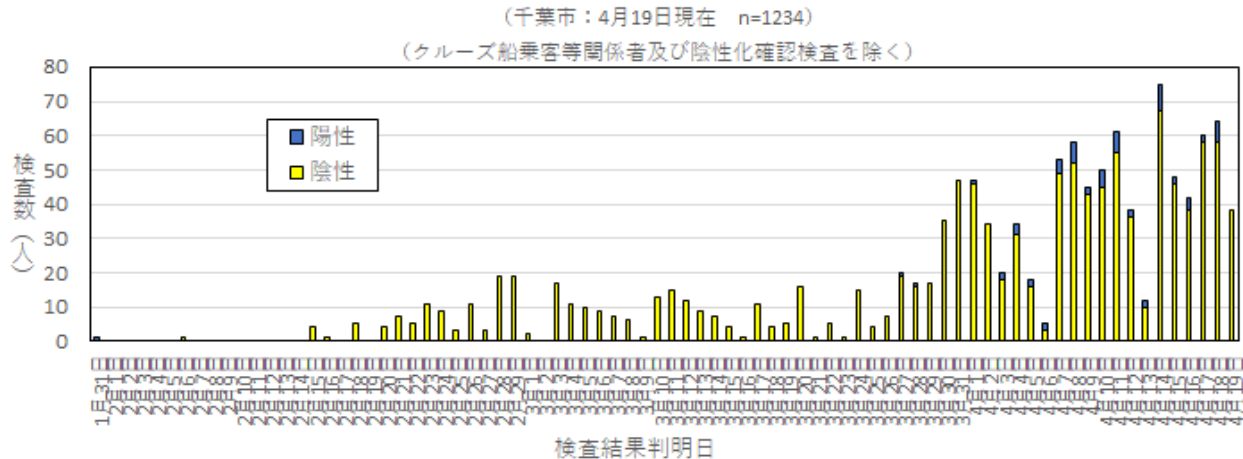


図2-2 新型コロナウイルス感染症市中感染疑い事例PCR検査状況

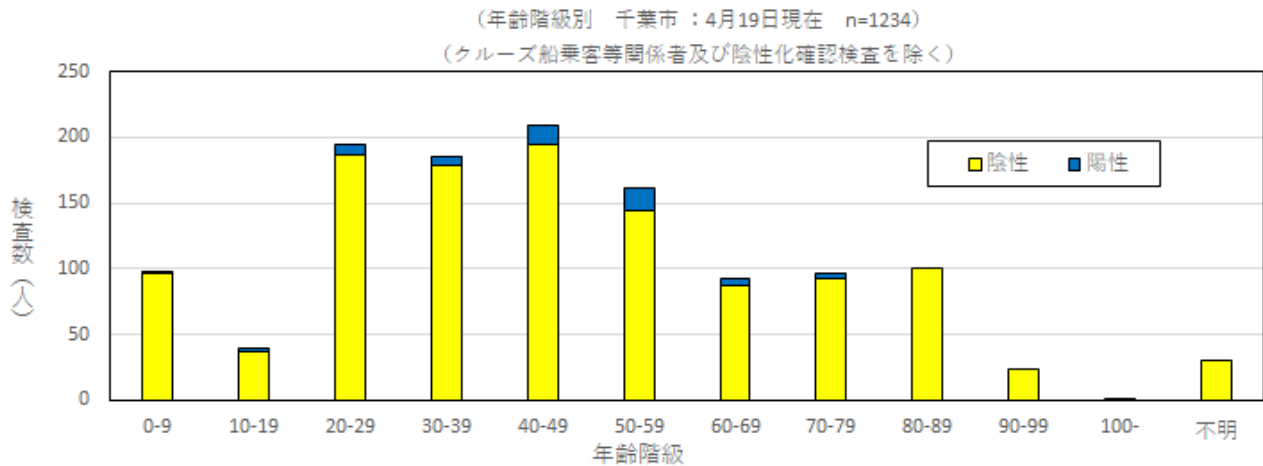


図2-3 新型コロナウイルス感染症市中陽性者

